

特別分科会 ①

総合型選抜における探究活動の評価をどうするか？

— ルーブリックの作成をきっかけに —

[報告者] 杉森 公一 (北陸大学 高等教育推進センター センター長・教授)
[コーディネーター] 柿本 航 (佛教大学 入学部 入学課 課長)
[コーディネーター] 森岡 大樹 (京都女子大学 教育・学生支援部 学生支援課 課長)

探究的な学びで育まれた資質・能力を大学でどう伸ばすかを再考し、高大接続の強化と入学者選抜の改善が求められている。分科会では、大学教育への円滑な移行を目指し、評価の意義やルーブリックの必要性・作成について議論する。

概 略

本分科会は「総合型選抜における探究活動の評価をどうするか — ルーブリックの作成をきっかけに」を主題に、探究で培われた資質・能力を大学でどのように受け取り、入学後の学び(入学前教育を含む)へどのように連続させるかを中心に位置づけた。

冒頭では、志望理由書・活動報告書・学びの計画書といった提出課題について、アドミッション・ポリシーに即した“問い”となっているか、また受験生にとって大学での学びの入口として機能しているかを点検する視点を提示した。

続いて、金沢大学における高大接続プログラム(入学前に「高校での学び」「大学での学び」を可視化するレポートとルーブリックの事前提示)や、北陸大学「21世紀型スキル入試」の改革事例を取り上げ、入試改革のタイプ(合格者を変えたい/入学前に育てたい/メッセージを変えたい/受験機会を増やしたい)に応じて、大学が投げかける問いの設計を再考する重要性を示した。

また、評価方法については、客観テスト・自由記述・パフォーマンス課題などを組み合わせる発想を前提に、信頼性・客観性・妥当性・効率性の観点を踏まえながら、志望理由書等の読み取りにルーブリックを用いる意義(観点・尺度・基準の設計、分析的ルーブリックの進め方)を整理した。

最後に、志望理由書を題材としたルーブリック作成(高校・大学別の評価観点は、後述の表に記載)の体験を通じて、大学の教育理念を可視化しつつ、高大で共有可能な評価の言語を整えることが本分科会の狙いであることを明確にした。

全体討論の内容

本分科会は、総合型選抜の拡大を背景に「大学の問い設計」と「評価の透明化」を再考することを目的として実施された。冒頭の講演では、高校での探究活動と大学の学びを連続させる視点から、志望理由書・入学前レポート・面接等における問いの再設計、さらに評価手法(客観テスト・自由記述・パフォーマンス課題・観察型評価)の特徴と使い分けが整理された。続いて、参加者は提示されたPPTテンプレートをを用いながら、志望理由書の評価ルーブリックを実際に作成するワークに取り組んだ。まず班内で「大学として学生に何を求めているのか」「志望理由書に表れてほしい学びの姿は

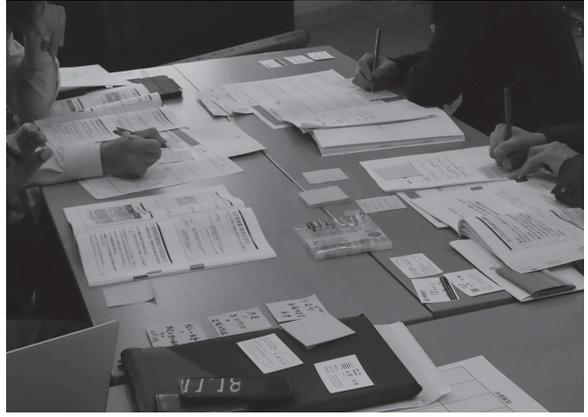
何か」を話し合い、挙げた要素を付箋等で列挙した。次に、それらをグルーピングし、「意見の表明」「学ぶ環境への理解」「探究・協働を通じた成長」「文章構成・形式」などの評価観点に整理したうえで、3～4段階の尺度と言語化を行った。特に、隣接する水準の違いを明確に書くこと、記述がそのまま採点の根拠になるよう具体性を持たせることに留意し、班ごとに議論をしながら、基準表を個人で完成させた。その後の全体討論では、高校での記述の多様性を前提に「大学側が何を読み取りたいかを先に提示すべき」との意見が多く、高大接続プログラムにおける“ルーブリック事前提示”の有効性が共有された。また、形成的評価では多様な情報を重視しつつ、総括的評価では信頼性・客観性の確保が重要である点も確認された。最終的に、ルーブリックは合否判定のための手段にとどまらず、大学が社会に発する教育理念のメッセージであり、高校の探究活動へ還流する「共通言語」となるとの認識で一致した。

到達点と今後の課題

本分科会の到達点として、まず 探究活動を基盤とする総合型選抜において、大学が求める「学びの姿」を明確にし、それを受験生へ問いとして提示する設計が不可欠であるとの認識が高大双方で共有された点が挙げられる。講演で示された高大接続プログラムや入学前教育の事例（入学前レポートとルーブリックの事前提示、オンライン交流、面談型支援等）は、探究で培われた主体性・思考力・協働性を大学がどのように受容し、入学後の成長につなげるかを示す具体例となり、選抜と教育の一体化を考える上で大きな示唆を与えた。

また、志望理由書や活動報告書に対する「問いの構造化」によって、受験生の思考の深まり、学ぶ動機、将来展望、探究プロセスを読み取る手掛かりが整理され、大学教育の理念が選抜段階に反映される枠組みが明確になった。さらに、講演で示されたように、客観テスト・自由記述・パフォーマンス課題・観察／対話の評価を目的に応じて組み合わせ、形成的評価では多様な評価情報を重視し、総括的評価では信頼性・客観性を確保するという整理は、評価設計の共通基盤として有効であることが確認された。

一方の課題として、高校の探究活動はテーマや記述の様式が多様であり、大学が求める観点との不一致が生じやすい現状が共有された。これを補うためには、TILT（学びの透明化）の考え方を援用し、課題の学習目標と設計根拠、問いの意図・評価基準を明確化し、ルーブリックを高大の共通言語として整備する取り組みを、選抜段階でも可視化することが有効である。また、大学が提示する問いが高校現場でどのように理解され、探究指導にどう影響しているかを継続的に検証する仕組みが求められる。加えて、入学前課題や面談等を通じた「入学前に育てる」アプローチを学部レベルで拡充し、探究を基盤とした総合型選抜を単なる選抜手法にとどめず、入学後の学びへの接続点として機能させる制度的整備が今後一層必要となる。



スライド 1

第23回 高大連携教育フォーラム 分科会（特別分科会① 高大接続）
2025年12月6日（土）14：30～16：30

総合型選抜における探究活動の
評価はどういうものか？
ルーブリックの作成をきっかけに

コーディネーター
佛教大学入学部入学課 課長 柿本 航
京都女子大学教育・学生支援部学生支援課
課長 森岡 大樹

スライド 2

開催目的：探究的な学びで育まれた資質・能力を大学でどう伸ばすかを再考し、高大接続の強化と入学選抜の改善が求められている。分科会では、大学教育への円滑な移行を目指し、評価の意義やルーブリックの必要性・作成について議論する。

タイムスケジュール：

- ・趣旨・概要説明 14：30～14：40
- ・ご講演 14：40～15：40（60分程度）
「講演テーマ 総合型選抜における探究活動の評価をどうするか？
～ルーブリックの作成をきっかけに～」
- ・個人ワーク 15：40～16：00
「志望理由書のルーブリックを作成してみよう」
- ・ワーク内容の発表 16：00～16：20
- ・まとめ 16：20～16：30

スライド 3

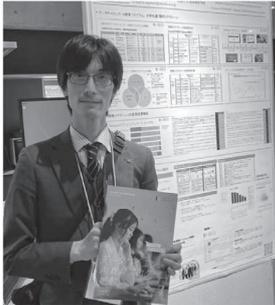
21世紀を生き抜くチカラ。
北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY

杉森 公一 先生
北陸大学 高等教育推進センター長

筑波大学修士(教育学)、金沢大学博士(理学)

筑波大学 第一学群自然科学類卒業
筑波大学大学院 修士課程教育研究科修了
金沢大学大学院 自然科学研究科
博士後期課程修了

金城大学研究員、金城大学医療健康学部助手、同助教、金沢大学大学教育開発・支援センター准教授、金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援部門准教授、タフツ大学CELT客員研究員を経て2021年4月より現職
専門は計算量子化学、理科教育および大学教育開発



学生の成長力 No.1

スライド 1

北陸大学 高等教育推進センター
Center for the Advancement of Higher Education

21世紀を生き抜くチカラ。 北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY

総合型選抜における探究活動の評価をどうするか？
— ルーブリックの作成をきっかけに —

2025.12.6 高大連携教育フォーラム特別分科会① 【当日提示】

杉森 公一 Kimikazu SUGIMORI, PhD, MEdu
北陸大学 高等教育推進センター センター長・教授
Director, Center for the Advancement of Higher Education, Hokuriku Univ.
<https://cahe.hokuriku-u.ac.jp/>

スライド 2

概要

- 総合型選抜・学校推薦型選抜での入学者が増加する現在、大学が受験生に課している志望理由書や活動報告書、学びの計画書など各提出課題は、アドミッション・ポリシーに沿った問いとなっているだろうか、また、自大学で学び入り口となっているだろうか。
- 探究的な学びで育まれた資質・能力を大学でどう伸ばすかを再考し、高大接続の強化と入学者選抜の改善が求められている。本分科会では、大学教育への円滑な移行を目指し、評価の意義やルーブリックの必要性・作成について議論する。

2

スライド 3

金沢大学 高校 連携
KUGS ワンダーフォーゲル (第1回)
2019年11月17日(日) 9:00~16:45
会場: 金沢大学 総合センター
金沢大学 総合センター
2019年度入試
KUGS ワンダーフォーゲル
「自分と社会をつなぐ探究→社会の課題を自分ごととするには?」
2019年11月17日(日) 9:00~16:45
会場: 金沢大学 総合センター
金沢大学 総合センター
2019年度入試
KUGS ワンダーフォーゲル
「自分と社会をつなぐ探究→社会の課題を自分ごととするには?」
2019年11月17日(日) 9:00~16:45
会場: 金沢大学 総合センター

高校生(受験生)を大学生に転換させる、問いと仕掛け=接続型入試の設計

高大接続の事例と類型:
高校と大学を「探究」で結ぶ

スライド 4

⇒ 高大接続プログラム - 金沢大学 (2021~)

KUGS 高大接続プログラム

高大接続コア・センター

- ・Webセミナー オンライン
- ・Liveセミナー 対面
- ・高大接続ワンダーフォーゲル
- ・多様な他者との議論・交流

入学前2種のレポート提出
*「高校での学び」
*「大学での学び」
(ルーブリックの事前提示)
→ 学力を育成・接続する

START!

金沢大学は、2021(令和3)年度入試から、「KUGS特別入試」を実施します。これに先駆け、金沢大学高大接続コア・センターは、2019年度から高校生対象の「KUGS高大接続プログラム」を開始しました。本プログラムでは、セミナー等様々な探究の学びの機会を提供します。セミナー等の受講後、定められた課題を提出し、金沢大学から評価を受けた方には「KUGS特別入試」の出願資格が与えられます。皆さんの参加をお待ちしています。

4

スライド 5

⇒ 21世紀型スキル入試 - 北陸大学(2020~)

2020年度 入学者選抜

21世紀型

医療人育成
薬学部 医療情報学部

スキル育成
経済経営学部 国際コミュニケーション学部

AO選抜

北陸大学

<入試改革のタイプ>
(令和5年度文部科学省委託事業「大学入学者選抜における総合型選抜の導入効果に関する調査研究」から、大正大学による分類をもとに整理し、なおし、北陸大学を位置付け)

- A 合格者を変えたい
筑波大・京都芸繊大・敬啓大 等
- B 入学前に育てたい
京都市大・金沢大・佐賀大 等
北陸大
- C メッセージを変えたい
東京都市大・金沢大・佐賀大 等
北陸大
- D 受験機会を増やしたい
桜美林大・京都文教大・筑紫女学大

スライド 6

タイプに応じた、受験生の問いの明確化

入試改革のタイプ (実際には複合的に追求)	意図	実践例
A 合格者を変えたい	従来の入試方法では選抜できない、多様な資質・個性を持つ学生を獲得	課題解決力、伸びしろ、多様性、個性、意欲などを評価。書類・面接・探究学習の成果等を活用
B 入学前に育てたい	入学後のスムーズな移行・学習意欲の向上	入学前課題・面談・オンライン学習・上級生との交流による育成的支援
C メッセージを変えたい	大学の教育理念や求める学生像を社会に発信し、志願者層を変える	高校生向けプログラムや要項を通じてメッセージを可視化。志望理由書や面接での教育理念に基づく問いかけ
D 受験機会を増やしたい	志願者増加・定員確保のための多様な入試方式の提供	年内入試の拡大、入試方式の多様化(実演・探究活動・グループ討議等)

スライド 7

志望理由書(総合型選抜)

APを具体化するための問い「高校での学びから大学での学びへ」

1. 高校時代などこれまで最も力をいれて取り組んだ活動の内容とその成果について記してください。	
(1) 学習活動について	
高校までの学習活動の経験を問い、入学前教育(プレレジュ、先取り履修)を制度化	4. 北陸大学入学後の学習について記してください。
→ 学力保障や大学生活への適応準備を目的とする	(1) 北陸大学でどのような力を身につけたいと考えていますか。
	大学の教育理念・学びの姿勢を表す「メッセージ」として動機・意欲・将来展望などを重視し、「主体性・協働性・課題解決力」など非認知能力に価値を置くことを伝える
	「なぜこの分野を学びたいのか」「どのように学びたいのか」→ 面接でも確認
(2) 学習以外の活動について	(2) その力を身につけるために、4年間をどのように学習したいと考えていますか。
入学前課題(レポート、eラーニングなど)を通じた学習習慣の形成	薬学部・医療保健学部では、地域貢献やチーム医療への理解を前提とし、将来の医療者像についての問いも課される
→ 学部ごとの入学前面接やガイダンスによる進路意識の明確化と進路意識・職業理解の強化	→ これらの受験生への問いによって、「地域医療人材の育成」「主体的学習者の育成」といった北陸大学の教育ビジョンの可視化が図られる

スライド 8

課題の透明性を高める7つの方法(TILT)

1. 学生が各課題を始める前に、課題の学習目標と設計の根拠を話し合う。
2. 授業の計画、議題の作成に学生を参加させる。
3. 授業中に、教えた概念を応用するような問題で、学生の理解度をピアワークで測る。
4. 学生が困難な転機(transition points)に取り組んでいる場合に、「どのようには学ぶのか」の知見を授業活動に明示的に結びつける。
5. 採点基準に照らして、課題に取り組むよう学生に働きかける。
6. 採点したテストや課題を授業で振り返る。
7. 授業中の議論について、どのような思考様式や学問的手法が用いられていたのかをコメントする。

出典: Transparency in Learning and Teaching project
<https://tilthighered.com/transparency>

スライド 9

目標に対応した評価方法(梶田2010)

	知識・理解	思考・判断	技能	関心・意欲	態度
客観テスト	◎	○			
記述テスト	○	◎			
レポート	○	◎	○	○	◎
観察法	○	○	◎	◎	○
口頭(面接)	◎	◎		◎	○
質問紙法				◎	○
実演		○	◎	○	○
ポートフォリオ			○	○	○

スライド 10

様々な評価方法

筆記による評価 (筆記試験、ワークシートなど)		パフォーマンスに基づく評価		観察や対話による評価
「客観テスト」式	自由記述式	完成作品の評価	実演の評価 (実技試験)	プロセスに焦点をあてる評価
<input type="checkbox"/> 多肢選択問題 <input type="checkbox"/> 正誤問題 <input type="checkbox"/> 順序問題 <input type="checkbox"/> 組合せ問題 <input type="checkbox"/> 穴埋め問題 (単語、句)	<input type="checkbox"/> 短答問題 (文章、段落、図表など) <input type="checkbox"/> 知識を与えて推論させる方法 <input type="checkbox"/> 作問法 <input type="checkbox"/> 認知的葛藤法 <input type="checkbox"/> 予測-観察-説明(POE)法 <input type="checkbox"/> 概念マップ法 <input type="checkbox"/> ペン図法 <input type="checkbox"/> KJ法 <input type="checkbox"/> 運勢ライン法 <input type="checkbox"/> 描画法	<input type="checkbox"/> エッセイ、小論文 <input type="checkbox"/> 研究レポート、研究論文 <input type="checkbox"/> 絵、図表 <input type="checkbox"/> 実験レポート <input type="checkbox"/> ソフトウェアのデザイン <input type="checkbox"/> ビデオ、録音テープ	<input type="checkbox"/> 朗読 <input type="checkbox"/> 口頭発表 <input type="checkbox"/> ディベート <input type="checkbox"/> 実験器具の操作 <input type="checkbox"/> コンピュータの操作 <input type="checkbox"/> 実習授業 <input type="checkbox"/> チームワーク	<input type="checkbox"/> 活動の観察 <input type="checkbox"/> 発問 <input type="checkbox"/> 討論 <input type="checkbox"/> 検討会 <input type="checkbox"/> 面接 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> ノート・日誌・日記
幅広い学力を評価するためには色々な方法を組み合わせる必要がある		<input type="checkbox"/> プロジェクト <input type="checkbox"/> ポートフォリオ評価法		
どの方法を用いるかは、教員が本当は何を重視しているかを暗黙のうちに学生に伝える				

(大高泉編著 2013, p.187 を改変)

スライド 11

どの評価方法にするのか

評価方法を考えるうえでの4つの観点

- 信頼性
同じ学生に対して同じ条件のもと複数回実施しても、同じような結果がでるか
- 客観性/比較可能性
複数の評価者間で(評価者が変わっても)結果が一致するか
- 妥当性
評価方法は、学習目標(=評価しようとする成果)に照らして妥当か
- 効率性
評価の実施や採点が時間的・経済的に実用的であるか

⇒ 総括的評価では信頼性・客観性の確保をより重視
 形式的評価では多様な評価情報を得ることを重視

スライド 12

さまざまな評価方法の長所と短所

	長所	短所
客観テスト式	・ 解答の正誤が判断しやすく採点が容易 ・ 信頼性・客観性が高い ・ 効率性が高い(時間・人数)	・ 学習者が本当に理解しているかが見えにくい ・ 妥当性の問題(適さない場合が多い) ・ 真正性の問題
自由記述式	・ 学習者の理解や考えが反映されやすい ・ 診断的評価、形成的評価にも有効	・ 点数化しにくく採点が比較的に困難 ・ 信頼性、客観性の問題 ・ 効率性がやや低い
パフォーマンス課題	・ 真正性を保証しやすい ・ 形成的評価に有効 ・ 学習を促したり調整したりするのに有効	・ 点数化しにくく採点が比較的に困難 ・ 信頼性、客観性の問題 ・ 効率性が低い(長時間)

→ いかんにして信頼性、客観性、効率性を高めるか

スライド 19

2. リストの作成 (15分→グループで相談)

- 志望理由書の具体的内容、志望理由書を完成したときに達成できる学習目標 やすぐれた成果物
 - 各目標に対して期待される最も高いレベルは？
 - 最も優れた志望理由書の特徴・徴候は？
- 付箋1枚に1項目ずつ書いていきましょう

3. グループ化と見出し付け / 4. 表の作成
期待される事項をグループ化、名前を付ける＝評価観点 (10分→グループで相談) **19**

スライド 20

ルーブリックのテンプレート 氏名・所属: 班:

課題 (入試種別・志望理由書の名称:)

		評価尺度		
評価観点				

スライド 21

参考文献

杉森公一 (2022-2023) 「連載: 教えるを学ぶエッセンス」週刊医学界新聞, 第1回～第12回 <https://www.isaku-shoin.co.jp/paper/series/203>

令和5年度文部科学省の先導的大学の改革推進委託事業「大学入学者選抜における総合型選抜の導入効果に関する調査研究」. https://www.mext.go.jp/content/20240426-mxt_daigakuc01-000035712_2.pdf

Winkelmes, M-A. (2019) "Transparent Design in Higher Education Teaching and Leadership". Routledge. The Transparency in Learning and Teaching project. <https://www.tiltishered.com/>

杉森公一 (2014) 連載: ルーブリックが結ぶ教育接続、『文部科学教育通信』、ジヤース教育新社

大高泉編著 (2013) 『新しい学びを拓く理科—授業の理論と実践 (中学・高等学校編)—』ミネルヴァ書房。

石井英真 (2015) 『教育評価の立場』西岡加名恵・石井英真・田中耕治編『新しい教育評価入門—人を育てる評価のために—』有斐閣コンパクト、pp.23-49

ダネル・スティーンズ&アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳 (2013-2014) 『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部

田中耕治編 (2010) 『よくわかる教育評価 (第2版)』ミネルヴァ書房

西岡加名恵 (2016) 『教科と総合学習のカリキュラム設計—パフォーマンス評価をどう活かすか—』図書文化デザイン・ハート著、田中耕治監訳 (2012) 『パフォーマンス評価入門—「真正の評価」論からの提案—』ミネルヴァ書房

松下佳代 (2012) 『パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて—』京都大学高等教育研究』第18号、pp.75-114. <http://hdl.handle.net/2433/169740>

梶田 敏一 (2010) 『教育評価 (第2版補訂2版)』有斐閣 **21**

Bain, K. (2012) What the Best College Students Do. Harvard University Press. (バイン)・藤井良江 訳 (2014) 『世界を変えるエリートは何をどう学んできたのか?』日本実業出版社

スライド 22

ポスト・ルーブリックに向けて

- 「ルーブリックを飼い慣らす」(松下2025)
 - 成果物を集める or 評価者間の調整 (モデレーション)
- 脱評価 (Ungrading) の視点 (S. Blum2020)
 - 発達段階のルーブリック
 - 高いパフォーマンスに向かうためのガイドとして

採点指針のルーブリック シングルポイント(一点)・ルーブリック
最高の評価基準のみ 中間の評価基準のみ

課題	レベル3(優)	レベル2(良)	レベル1(可)	
観点1	評価基準は示さない
観点2	

松下佳代ら編著 (2025) 『ライティング教育の可能性』勁草書房 / Blum, S (2020) "Ungrading" West Virginia **22**

スライド 23

補遺

まとめに代えて

スライド 24

「測る」「量る」「秤」をこえて

測量しようとしている学習成果 (Output・Outcome ≠ 学力) は誰のものか、なぜ重要か、測定執着に囚われていないか

Diversity, Equity, and Inclusion (多様性の包摂と公正) ≠ Equality (公平性)

- 学生の学びは測量できるのか、してよいのか？
- 卒業証書・学位の通用性と、その結果として教育の説明責任は？

目指す学びは

- 生徒・学生が自らを知り、自律的な学習を続けていくこと
- 生徒・学生が社会を形成する主体となること
- 学習成果、学習能力の育成の機会で、明示的に問い、多様に、多面的に、多元的に、仕掛けていくこと
- ・・・(ものさしとなる入試は、その「結果」でしか、ない)

24

第 23 回高大連携教育フォーラム

総合型選抜における志望理由書のルーブリック作成で高校・大学別に挙げた評価観点					
大項目	高校	大学	小項目	高校	大学
大学理解	○	○	大学の育成像を理解している	○	
			大学の教育の特徴を理解している	○	○
			大学の強みを理解している	○	
			A P と本人との整合性がある	○	○
幅広い教養		○	有している		○
基礎的教科学習知識・技術		○	有している		○
専攻分野の専門を学ぶイメージ		○	有している		○
			論文やレポート作成の経験がある		○
			関心ある領域に関わる勉強会等のイベントに参加したことがある		○
			大学で行きたい分野の理解ができている		○
			研究室について調べている		○
			関心ある講義を見つけている		○
			関心ある講義のシラバスを確認している		○
複数分野への理解		○	有している		○
理解力（学習面）		○	有している		○
主体性	○	○	将来に必要な力を身につけている	○	
			主体的活動の経験を語れる	○	
			自分の意見や疑問をまとめることができる		○
			自律的学習姿勢を有している		○
問題意識	○		有している	○	
リーダーシップ		○	活動等でのリーダー経験が豊富である		○
シチズンシップ		○	有している		○
行動力		○	現状の自分を越えた体験		○
			疑問をすぐに調べて確認する習慣がある		○
意欲	○	○	学習する意欲がある		○
			自分の言葉で熱意が語られている	○	
人間性の基礎素養 (自己・利他・尊敬)		○	有している		○
独自性	○		オリジナリティがある	○	
他者協働・協調性		○	有している		○
ストレスコントロール力		○	有している		○
高校までの学びの自己分析	○	○	自分をリフレクションできている		○
			学校で頑張ったことを語れる	○	
			これまでの学びの目的・プロセス・結果が明確	○	
			関心やテーマに関わる体験が明確にある		○
			成長ポイントが明確	○	
			失敗の分析とその理解	○	
			好き・得意分析ができている	○	
			社会で活躍し、貢献の経験がある		○
高校での探究活動が具体的に記述されている	○				
入学後の目標・計画	○	○	卒業後、将来の目標・ビジョンが明確にある	○	○
			卒業後、どのように社会貢献するか語れる	○	
			何を学びたいか明確にある	○	○
			何をしたいか明確にある	○	
			大学での研究テーマが明確にある		○
			研究テーマについての文献を挙げられる		○
			学びたい、やりたいことが志望している大学学部に一致している	○	○
			高校時代の学びや活動と大学での学びがつながっている	○	○
			研究活動の計画が実行可能である	○	
目標実現までの計画(ステップ)がある	○				
読みやすさ・構成	○	○	表現力	○	○
			論理的思考	○	○
			自分の言葉で語っている	○	
			根拠をもって語っている	○	
			文章量		○
			文字の丁寧さ		○